

10. 人工授精とはどういう治療ですか？

人工授精(AIH:Artificial Insemination with Husband's semen)は、洗浄・濃縮処理を施した運動性の良好な精子を、排卵のタイミングに合わせて子宮内に直接注入する不妊治療法です。精液中には、死んだ精子、炎症細胞、細菌、プロスタグランジンなどが含まれており、これらは子宮収縮や子宮内膜炎などの炎症の原因となるため、洗浄処理によって除去されます。

AIH は以下のような症例に適応があります。

- ・ 乏精子症(精子濃度 1,600 万/mL 未満)
- ・ 精子無力症(運動率 42% 未満)
- ・ 性交障害、射精障害
- ・ 精子-頸管粘液不適合
- ・ 抗精子抗体陽性
- ・ 原因不明不妊

AIH は自然周期で行うこともありますが、排卵誘発剤(クロミフェン、レトロゾール、ゴナドトロピンなど)を併用することで妊娠率が上昇します。ただし、多胎妊娠や卵巢過剰刺激症候群(OHSS)のリスクもあるため、医師による慎重な卵胞のモニタリングと個別調整が必要です。洗浄後の精子は通常より受精能力がある時間が短くなることより、排卵前日から当日に AIH を行うことが望ましいとされています。

AIH は安全性の高い治療ですが、まれに有害事象がみられることがあります。処置後に下腹部の痛みや不快感、わずかな出血が起こることがありますが、多くは自然におさまります。ごくまれに感染やアレルギー反応が起きることもありますが、適切に対応すればほとんどの場合は改善します。

AIH の妊娠率は 1 周期あたり約 5～10% (排卵誘発を併用した場合で 10～15%)とされています。調整後の総運動精子数が 500～1000 万未満の場合、妊娠率が著しく低下するため、体外受精(IVF)への移行が推奨されます。また AIH の施行回数については、3～6 回を上限とするのが一般的です。6 回以上繰り返しても妊娠に至らない場合は、治療ステップアップの検討が必要です。